



Indigenous Peoples' Day / Columbus Day：授業アイデア （簡単版）

先住民の日・コロンブス・デーをテーマにした英語の授
業アイデア 2本

Class _____ No. _____ Name _____

1. 2つの立場で読む：同じ日のちがう物語

高校・50分

🔗 1つの出来事を2つの立場から英語で説明し、相手の立場を言いかえる力をつける。

1. 1492年の航海、1891年のニューオーリンズ事件、1992年のバークレーを年表にする。
2. 半分の班は「イタリア系アメリカ人」、半分は「先住民」の立場で、For us, this day means ... を3文書く。
3. 相手の班の意見を You think that ... because ... の形で言いかえてから、自分の意見を述べる。
4. 最後に、両方を尊重する祝日の名前やイベントを英語で提案する。

2. コロンブスと「平らな地球」のファクトチェック

中学・25分

🔗 よくある誤解を資料で確かめ、True / False と理由を英語で言う。

1. 「コロンブスが最初に見つけた」「当時の人は地球が平らだと思っていた」など3つの文を配る。
2. ペアで True / False を予想する。
3. 答え合わせ（先住民、1021年のバイキング、地球の大きさの論争）をし、It's false because ... で理由を言う。
4. コロンブスが目指した国が日本だったことを紹介し、感想を1文書く。



1. 2つの立場で読む：同じ日のちがう物語

授業手順書（詳細版）／対象：高校／50分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

1492年・1891年・1992年の出来事を年表にし、イタリア系アメリカ人と先住民の2つの立場から10月の第2月曜日の意味を英語で説明できる。相手の立場を You think that ... because ... で言いかえてから、自分の意見を述べられる。

準備

- 基本セット p.1（読解）：本文全4段落
- 年表ワークシート（1492 / 1891 / 1971 / 1992 の欄）
- 立場カード（Italian Americans / Indigenous peoples）を班ごとに1枚
- アクティビティ集 B5（国くらべ）：アメリカ・スペイン・アルゼンチン・ベネズエラ・カナダ
- 記事の会話（Daniel と Aoi）の音声：このサイトの英語ページ

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	英語ページの会話を聞かせ、Why does one day have two names? と問いかける。Aoi の So it depends on who tells the story. という一言を板書し、今日のテーマにする。	会話を聞き、1つの日に2つの名前がある理由を予想する。	"Listen. Why does one day have two names?" "Aoi says, It depends on who tells the story." "Today, we will read the same day from two sides."
展開1	12	本文を読み、年表を作らせる。1492年コロンブスがカリブ海の島に上陸（日本を目指していた）、1971年10月の第2月曜日が国の祝日に、1992年 到着500年の年にバークレー市が Indigenous Peoples' Day と名づけた。1891年は記事の解説から、ニューオーリンズでイタリア系移民11人が暴徒に殺された事件として先生が補足する。	本文を読み、年表を完成させる。1891年の事件について先生の説明を聞く。	"Read the text and complete the timeline." "What happened in 1492? In 1971? In 1992?" "In 1891, 11 Italian immigrants were killed by a mob in New Orleans." "Why did Columbus Day become important to Italian Americans?"
展開2	12	クラスの半分の班に Italian Americans、半分に Indigenous peoples の立場カードをわたす。本文の第3段落・第4段落を根拠に、For us, this day means ... で始まる3文を書かせる。B5の国くらべで、ほかの国では同じ日をどう呼んでいるかも参考にさせる。	割り当てられた立場で、この日の意味を英語で3文書く。	"Your group speaks for Italian Americans. Your group speaks for Indigenous peoples." "Start with, For us, this day means ..." "Use facts from paragraph three or four." "Look at the chart. Spain and Venezuela use different names."
展開3	13	ちがう立場の班どうしてペアになり、相手の意見を You think that ... because ... で言いかえてから、自分たちの意見を述べさせる。言いかえが正しいか、相手に Yes, that's right. / Not exactly. で確認させる。2回相手を変えて行う。	相手の立場を言いかえて確認してから、自分の立場の意見を述べる。	"First, repeat the other side's idea." "You think that ... because ..." "Then ask, Is that right?" "Now give your own view."
まとめ	8	両方の立場を尊重できる祝日の名前やイベントを、班で英語で提案させる。各班1つずつ発表し、本文の最後の問い Which name would you choose? に各自が理由つきで1文答えて提出する。	両方を尊重する祝日の名前やイベントを提案する。自分ならどの名前を選ぶか、理由を1文書く。	"Can we respect both sides?" "Suggest a name or an event for this day." "Which name would you choose? Why?" "Write one sentence."

板書例

One Day, Two Stories

1492 Columbus landed on an island in the Caribbean (he hoped to find Japan)
1891 New Orleans : 11 Italian immigrants were killed by a mob
1971 Columbus Day : a national holiday (the second Monday in October)
1992 Berkeley : Indigenous Peoples' Day (500 years after)

For us, this day means ____ .
You think that ____ because ____ .
Is that right?

Which name would you choose?

評価のポイント

- 年表の出来事を本文と説明から正しく読み取れたか。
- 割り当てられた立場で、本文を根拠にこの日の意味を説明できたか。
- 相手の立場を正確に言いかえてから、自分の意見を述べられたか。

つまづきへの手だて

- 立場の文が書けない班には、本文の hero / pride / immigrants（第3段落）、already lived / slaves / diseases（第4段落）に線を引かせてから書かせる。
- 言いかえが難しい生徒には、相手の文の主語を you に変えるだけでよいと伝える。
- 家族のルーツなど個人の背景にふれる話なので、生徒自身の立場を言わせることは強制しない。

発展

- I think the second Monday in October should be called ... because を書く。
- アクティビティ集 B5（国くらべ）で、カナダでは同じ月曜日が感謝祭であることなどを比べる。
- 自分の住む地域に昔から住んでいた人々について、調べたいことを英語で1文書く。

使う教材

- 基本セット p.1（読解）
- アクティビティ集 B5（国くらべ）
- このサイトの英語ページの音声（会話）



2. コロンブスと「平らな地球」のファクトチェック

授業手順書（詳細版）／対象：中学／25分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

コロンブスについてのよくある誤解を資料で確かめ、True / False と理由を It's false because ... の形で英語で言える。

準備

- 3つの文のカード：① Columbus was the first person to find America. ② People in 1492 thought the Earth was flat. ③ Columbus wanted to go to Japan.
- 答え合わせ用の資料（記事より：アメリカ大陸にはすでに何百万人もの人が住んでいた／1021年にバイキングがカナダで活動していた／中世の学者の多くは地球が丸いと知っていて、論争は地球の大きさだった）
- 基本セット p.2（4択・True / False）
- 世界地図

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	世界地図でスペインからカリブ海までの航路を示し、1492年にコロンブスが3隻の船で西へ向かったことを紹介する。「コロンブスについて、みんなが信じている話は本当？」と投げかける。	地図で航路を見る。コロンブスについて知っていることを言う。	"In 1492, Columbus sailed west from Spain." "He had three ships." "What do you know about Columbus?" "Let's check some famous stories."
展開1	6	3つの文のカードを配り、ペアで True / False を予想させる。予想の理由を日本語でもよいので話し合わせる。	ペアで3つの文が正しいかどうかを予想する。	"Read the three sentences." "True or false? Talk with your partner." "Why do you think so?"
展開2	9	資料で答え合わせをする。①は False：すでに何百万人もの人が住んでいた。ヨーロッパ人でも1021年にバイキングがカナダにいた。②は False：学者の多くは地球が丸いと知っていて、本当の論争は地球の大きさだった。③は True：コロンブスはアジアを目指し、日本を見つけないと思っていた。It's false because ... の形で理由を言わせる。	答えを確かめ、It's false because ... の形で理由を英語で言う。	"Number one is false." "It's false because millions of people already lived there." "Number two is false, too. The real question was the size of the Earth." "Number three is true. He hoped to find Japan!"
まとめ	6	コロンブスが目指した国が日本だったことにもう一度ふれ、感想を英語で1文書かせる（I was surprised that ... など）。何人かに読んでもらう。時間があれば基本セット p.2 の True / False に取り組ませる。	感想を英語で1文書き、発表する。	"Columbus wanted to find Japan. Surprising, right?" "Write one sentence. I was surprised that ..." "Who wants to read?"

板書例

Fact Check: Columbus

- ① Columbus was the first person to find America. → F
millions of people already lived there / Vikings in Canada (1021)
- ② People in 1492 thought the Earth was flat. → F
the real question: the size of the Earth
- ③ Columbus wanted to go to Japan. → T

It's false because _____.
I was surprised that _____.

評価のポイント

- 3つの文の True / False を資料で確かめられたか。
- It's false because ... の形で理由を英語で言えたか。
- 感想を I was surprised that ... の形で書けたか。

つまづきへの手だて

- 英語の文が読みにくい生徒には、カードの下に日本語訳を小さく書いておく。
- 理由が言えない生徒には、資料のキーワード（millions of people / round / size）を使えばよいと示す。
- 地図で場所がわからない生徒には、スペイン・カリブ海・日本に印をつけておく。

発展

- コロンブスが地球の大きさを小さく見積もったため日本が近いと考えたことを紹介し、地図で実際の距離を比べる。
- 基本セット p.6 の迷路（船が海をわたる）をする。
- 基本セット p.4（クロスワード）で ship / island / ocean などを確認する。

使う教材

- 基本セット p.2（4択・True / False）
- 基本セット p.4（クロスワード）
- 基本セット p.6（迷路）